平成 16 年 6 月 17 日

＜4953　佐々木　朗＞

本学における教育のＩＴ化について感じたこと

1.はじめに

4 月に夢と希望を持って本学大学院に入学させていただき、私はこの２年間でこれからの情報教育を推進する立場になれるよう勉強をしている。私は現場において、渡島情報教育研究会の事業を通して、また近隣の学校からの依頼により、教育のＩＴ化に微力ながら携わってきた。校務処理のＩＴ化（ワード、エクセル、パワーポイントなどのアプリケーションの利用指導)、ハードウェア関係の整備（ＬＡＮの敷設、ルーター設定、ファイルの共有、プリンタ共有設定)、そして学校において、前任校では、技術・家庭の授業を、また、現任校では、教科や総合的な学習の時間、クラブ活動で自動・生徒の情報活用能力の育成に尽くしてきた。現在でもパソコントラブルの便利屋として、結構重宝されている。

私の日常の実践の中で感じたことは、現場の先生は、現在のレベル以上に教育の情報化について、意識を高めていくことが大切だと感じた。言うまでもないが教師はＩＴの専門家ではない。したがってハードウェア、ネットワーク、アプリケーションの高度な設定は決して望むものではない。しかしながら、ちょっとしたトラブル部について、その所見をＳＥと話が通じる程度のスキルのある教員がほしいというのも私の願いである。

教師に求められるＩＴのスキルはどの程度かと一概に述べることはできないが、具体的にあげるとしたら、①ＷＥＢにより、必要な事項を検索できること。②電子メールを扱えること。③ワープロを使い、イメージデータを貼り付けることができること。④基本的な表計算ができること。これらのスキルが教師に兼ね備えられると、自然と児童・生徒にも積極的に指導しようとする意識が強くなってくると考える。だが、現実は、なかなか厳しいものがある。そこで件の通り、機会があれば、教育のＩＴ化の語り部になっているというわけである。

２．うらしま太郎で大学に戻ってきて

さて、私が本学を卒業して 20 年たって、再び戻ってきたが、私の思い浮かべていた（私が在学していた当時のイメージ？）とは、異なっていることが多かった。一番奇妙に感じたのは、ホールの携帯電話である。授業の間の移動時間にはほとんどと言って過言でないほどの学生が携帯電話をピコピコやっている。通話している学生もいるが、ほとんどはメールであろう。私の時代には携帯でんわこそなかったが、今の学生達にとっては、携帯電話は、何にも増して重要

なグッズなのであろう。
　それともう一つ感じたのが授業に対する姿勢である。私は 20 分前には教室に行き、教室環境を見て（授業をしていただく先生に対し、失礼がないように、黒板をきれいにし、部屋がきたなければ多少掃除しという感じ）、その日学習することに多少目を通すようにしている。実際その全てその通りにできるわけではないが、ホントにそのように考えている。この間から何日か自転車置き場のあたりに立って朝のあいさつをしてみた。みんな「おはようございます」と声をかけてくれた。８時 55 分ぐらいがピークで、9 時を過ぎても、さほど急ぐ様子もなく、学内に消えていった。５分前には席に着いて待つものだ。先生は厳しく指導すべきだと感じた。話がそれてしまいました。

３．大学におけるＩＴ化について
本学のＩＴ化（教員養成大学としての学生のＩＴ意識の向上）について、考えを述べる。
①学生への情報提供（ソフトウェア）
　誰でもそうであるが、ＩＴ化は、利便性が向上するからそのようにしようというのである。したがって、ＩＴ化することにより面倒になることは進まないと考える。
・学生へ情報提供について（学内メールの携帯への転送サービスについて）
　現在も本学のトップページには休講情報が掲載されている。学生が一番楽しみに？しているところである。ＷＥＢ管理はとてもよくされており、いつも最新情報が載っている。ビデオレター、花だより、そして入試説明会情報など必要なものが載っており、毎日みている。一方、教務掲示板、学生掲示板には昔のようにたくさんの呼び出しが貼りだされている。
　学生が必要な情報がＩＴ技術により、いつでも自由に入手できるようなシステムを提唱したい。しかしながら、学生のほとんどが携帯端末に頼っている現状を考え、与えられた大学アドレスから、携帯端末への転送も可能とする設定を加える。
・大学からのお知らせ
　学生全体に伝えることが大切な情報について、メールマガジン的内容で、流す。例えば、副学長からのメッセージ、学生係、教務係からのお知らせ、各研究室のトピックなど。長くなりそうなものはＵＲＬを付記してその先に詳細情報を置く。
・個人または特定の人に必要なお知らせ
　休講情報、授業で必要なもの、図書館や各係からの呼び出し、相手を指定して、電子メールで伝える。

これらに関わって、個人の名前が出るような掲示は極力なくしていく方向で検討していく。

・ＭＬの積極的な利用推進

授業、研究室、サークルなどで、所属員の了解のもと、ＭＬ（メーリングリスト）を積極的に作成、情報提供、情報交換ができるようにする。現実として、所属している全員に周知する事項がある時、全員がそろうことはなかなかないためかなりのエネルギーを使っているようである。ＭＬを利用推進し、どこにいても連絡や情報を伝えられるようにしていく。

②無線ネットワークの整備（ハードウェア）

今まではソフトウェア環境について述べたが、最後にハードウェア環境について述べる。現在もこの院生室にはＬＡＮが入り、自由にネットにつなげる状態にある。しかしながら、全ての研究室に情報コンセントがあるかというとそうでもないのが現状のようである。今後に向けて、新たにＬＡＮケーブルを伸ばすよりも、学内に、複数のアクセスポイントを置き、無線ＬＡＮによって、どこででもネットに入れるような環境整備を進めていく。ネットワーク用のＰＣについては、さほどスペックを必要としないので、数学棟のＰＣの入れ替え時などに、それらを学生用の端末として学内にばらまく。無線ＬＡＮボード及びカードは大学で用意する。さらに個人用コンピュータについても積極的にネットワークにつなぐことを奨励する。ＤＨＣＰサーバー接続でよろしいと思うが、ＭＡＣアドレスにより、登録端末を確認するとか、ネットワークにおけるウィルス感染を防止するための対策なども同時にしていく必要がある。

③学びにおける積極的なコンピュータ利用

既にいくつかの授業で、ＭＬによる授業の情報交換、レポートの提出は行われているが、その積極的推進をさらに進めていく。やはり現場の教員としては、マイクロソフトのアプリケーションで申し訳ないが、ワード、エクセル、パワーポイントぐらいの知識は持ってほしいと思う。

そして、私がコンピュータに熱中したのは、心理の先生方のおかげである。コンピュータが好きな学生はたくさんいるはずであるので、興味のある学生がとことんまで学べる環境を作っていくことを願いたい。

④授業情報、研究情報の公開

授業の教材、教官の発表論文などはできるだけＷＥＢ上で公開していく。このように情報を共有していくことが、研究の発展に大きく寄与するからである。また、私のことで恐縮だが、ＷＥＢ上にレポートを置いてある。そうすると、どこへ行っても自分のしてきた仕事をプレゼンすることができる。教官においても授業において即座に学生に情報を提供できることになると考える。また、できるならば、学生に自分の管理するＷＥＢページを持たせ、自分の研究して

いることを他人にさらしていくようなことも大切かと考える。

３．最後に

　月曜日の朝、学生さんたちと一緒に勉強させていただいて、週に一度程度気がついたことがあればＢＣＣでメールを流している。月朝の皆さんからもたまにではあるが近況報告をいただき、楽しく読ませていただいている。学級という学年集団がそろう機会のあまりない大学という組織においては、メールでのやりとりというのは非常に有効と思う。

　今、ネット社会については、マスコミなどでは負のイメージが先行している。情報社会の正の部分、負の部分について、それが何ぞやと語るためには、まず、ネット社会において、どのようなことができるのかということを知った上で、それに付随する負の部分についても学んでいくことが大切だと思う。

　教育における不易と流行。情報化社会で自分の力を十分発揮できる児童・生徒を育てていくためには、教師のしっかりしたＩＴへの理解が必要である。

　私は、この一年で情報教育、教育のＩＴ化について学習を深めると共に、母校のＩＴ推進に微力ながら、力をつくしていきたい。